

3. フローティング

ライフジャケットを装着して、川に浮かんで、流れにのってプカプカと流れでみましょう。

■目的

- ①川の流れを体全体で感じる。
- ②ライフジャケットの装着方法を知り、その浮力を体感する。



●琴似発寒川でフローティングに挑戦する児童(仲よし橋下流)

■適した場所

- ①水深が1m程度で、流れが緩やかな場所
- ②安全にスタート、ゴールできる岸(浅瀬)がある場所
- ③スタートとゴールの間隔は、5m程度

■すすめ方

- ①スタートとゴールを確認する。スタートとゴールには教員・指導者(以下、補助者)が補助に入る。
- ②陸上で、仰向けで浮かび、頭を上流、足を下流に向けて流れていくことを確認する。
- ③スタート前に一列で並ぶ。
- ④一人づつ、補助者に仰向けに浮かべてもらい流れる(写真10)。
- ⑤ゴールについたら補助者に支えてもらいながら立ち上がる。

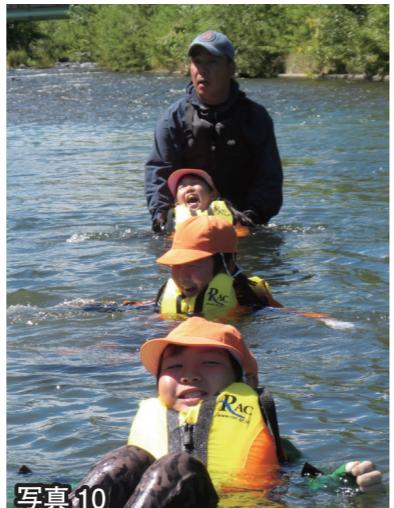


写真10
●補助者に支えられ、仰向けに浮かんでから、下流へと流れ出す児童

■使用する道具

ライフジャケット

■実施上の注意点

- ①気温が23度を下回る日には行わない。
- ②活動全体の一番最後に実施し、すぐに着替えることができる準備をしておく。
- ③予め実施場所の水中を確認し、足をとられるような障害物がないか確認する。
- ④児童の体調や気持ちを考慮して、体調がすぐれない児童や気がのらない児童が無理に取り組まないように注意する。
- ⑤眼鏡使用の児童は眼鏡バンド(もしくはゴム紐)で眼鏡を固定する。

4. 水質調査

透視度計やCOD(化学的酸素要求量)のパックテストを使って、自分達の街を流れる川の水がどんな水なのか調べてみましょう。

■目的

- ①自分達の街を流れる川の水質を知る。
- ②人の生活が川の水質に及ぼす影響についても知る。

■適した場所

- ①平らな場所がある川原
- ②室内(教室・多目的室・体育館)



●CODとは水溶中の有機物などを酸化するために必要な酸素の量

■すすめ方

- ①水質調査の方法を説明する。
- ②川の水をバケツに汲み、透視度を計測し、COD(化学的酸素要求量)のパックテストを行う。
- ③水道水や砂糖水、ドロ水などと数値を比較する。
- ④川の水質がどの程度かを透視度(写真11)やパックテスト(写真12)の数値(色)から確認する。
- ⑤人の生活で使われた水が、どういった経路をたどって川に戻っていくのかも考える。
- ⑥「水中観察」で採取した指標生物と「水質調査」の結果を照らし合わせる。

透視度計の使い方



●水を入れ、上からのぞき込み底の二重線がはっきり見える高さを計測する。

■使用する道具

透視度計、パックテスト(COD)、バケツ、水道水・砂糖水・ドロ水等の比較する水

■実施上の注意点

パックテストの試薬が誤って口に入らないように注意する。



●パックの中に試薬が入っていて水を入れると色が変わる。